

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700649		
法人名	株式会社 想健		
事業所名	グループホームいにしえ(1階やわらぎ)		
所在地	福島県須賀川市下宿83番地		
自己評価作成日	平成30年2月22日	評価結果市町村受理日	平成30年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成30年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭には四季折々の花木が植えてあり、小さいながらも畑があり一緒に種や苗を植え収穫を楽しめるようにしている。ホーム内は古民家風で畳み敷きの小上がりと居室もあり落ち着いた、たた住まいとなっている。

利用者様それぞれ見合った力を活かせるよう、準備や段取りをし役割を持ち生活されている。暖かい日には散歩もされるが玄関ベンチや椅子に腰掛けお茶を飲まれたり、外を眺めたり自由に過ごされるようにしている。たまにフリーの日を設け担当者と一緒にいきたい所への外出や外食、部屋片付け等行えるようにしている。楽しみの1つに、行事食、誕生日食(好みの物)の他毎週水曜日は希望食の日とし順番で食べたい物を食べられるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 虐待と身体拘束については、県の指針を資料に研修会を実施し、職員同士の振り返りを行い、グレーゾーンについても話し合っている。さらにコンプライアンスチェックシートで身体拘束や虐待について確認するなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。

2. 利用者の残存能力を活かし皮むきや調理などを一緒に行っている。また、毎週、利用者個々の希望食の日を設け提供するほか、好み合わないメニューの時には別メニューで対応するなど美味しく食べられるよう配慮している。利用者と職員は会話を楽しみながら一緒に食べており、食事を楽しむ雰囲気を感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り後、皆で唱和したり勉強会にて問いかけ意識して実践できるよう努力している。	個人の尊厳、その人らしい生活、地域との交流などを内容とする理念を毎朝唱和し共有と理解を深めながら日々のケアに取り組んでいる。重度化しつつある利用者への対応についても尊厳を意識し合いながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、ゴミステーションが事業所敷地内にあるので近隣住民と顔を合わす機会も多く挨拶や会話をする機会も多く催し時にはチラシを配り挨拶回りをして参加を呼びかけている。資源をストックして町内の育成会主催の資源回収に協力している。	町内会に加入し資源回収などの協力をしている。事業所の夏祭りや敬老会に地域の老人会を招待し交流している。また近くの児童館の子どもたちが訪れ、ゲームや歌などで楽しんでいる。重度化し地域行事への参加が難しくなっているが、町内会から行事のいも煮が届けられるなど地域に受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の初任者研修の実習生や体験学習の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	奇数月の第4火曜日に町内会長、包括スタッフ、家族代表の参加を頂き、ホームの生活状況や現状、事故、ヒヤリの報告をしたり、災害時の協力体制についての意見交換を行い改善に向け取り組んでいる。	委員が参加しやすいよう夕方の時間帯で定期的開催している。運営状況、事故やヒヤリハットなどを中心に話し合い、意見や地域の情報を把握して運営に活かしている。また、毎回食中毒、職員体制などテーマを設け話し合うなど委員の理解を深める機会となっている。	地域代表は町内会長の参加にとどまっている。引き続き参加依頼を行い、理解を得て協力いただくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課や介護保険課、生活保護担当者等と連絡を取り合い、課題や疑問との相談をしたり情報を入手している。	介護報酬の改定や人員基準等疑問が出るたびに市担当に相談している。介護報酬改定の際はわかりやすい資料を示されるなど事業所との連携が深まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待と共に身体拘束の勉強会を行っている。 夜間帯(遅退社後～早出勤時)以外は、玄関の施錠や柵、ベルト等の拘束もなくセンサーと見守り強化で対応している。	虐待と身体拘束について県の指針を資料に研修会を実施している。その際職員個々に振り返りを行い、グレーゾーンについても話し合っている。さらにコンプライアンスチェックシートで身体拘束や虐待について確認するなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に勉強会を実施し、各自勉強会で気づいたことや、反省したこと今後に向けた取り組み、ケアのあり方を考慮してもらい防止に努めている。 入浴時や排泄介助時は特に念入りに観察し内出血痕や傷の把握に努め記録しスタッフ全員が把握できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度は成年後見制度を利用されていた方がおり特に勉強会は行わなかった。今後は取り入れていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約書、重要事項を説明し同意を得ている。改定等がある場合には、現行と改訂後を資料にし家族会総会にて十分説明し理解、納得が得られるよう話し合いをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に「みんなの広場」意見箱を設置している。契約時には県や市に窓口があることを説明。面会時や書類送付時に状態を報告しながら意見や要望の問いかけを行っている。 利用者とは日頃の言動から思いを察し反映に活かしている。	家族面会シートに要望記入欄を設け要望などの把握に努め、家族会でも意見を把握している。利用者からは日々の言動や表情から読み取って把握している。要望として出された居室の清掃については、日々の清掃に加え行事で利用者が外出した時清掃業者による清掃も導入した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談時や各会議時、申し送り時等常時日々の気づきや疑問、提案をしてもらえるよう問いかけし意見等を気軽に言いやすい雰囲気作り(コミュニケーションを大切に)に努め反映に活かしている。	年2回事務長による面談を行い要望や意見を聞いており、管理者も普段から意見を聞くようにしている。避難の際の安全面から外にセンサーライトをつけたり勤務面での要望に対しても配慮するなど意見を取り入れ働きやすい環境づくりに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価をしてもらい評価を行っている。各人の実績や勤務状態、ケアの内容等を考慮し賞与やベースアップに等に反映している。 また、会議や勉強会等での時間外手当のほか、資格取得の受講料、宿泊・交通費等は初回のみ全額援助している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTを通し、その場その場のケアの仕方や言動を注視し都度違いや方法を伝授している。 内部での勉強会や、各人の力量に合わせて外部研修に積極的に参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での研修や、県・市主催の研修に参加したり、県南地区は希望する研修を研修委員が各グループホームを訪問して行ってくれている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に、本人・家族の要望やケアマネ・スタッフ等から詳細に話を伺いながら情報を収集し、求めていることを探り不安を抱かせないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	姿勢や言葉に気遣い、話したいことを話せる雰囲気作りをしながら状態や生活歴、家族としての不安や困りごと等の他、どのように生活して、どのようになって欲しいのか等要望を伺い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査をもとに、予測されるリスクや本人・家族の要望を取り入れカンファランスを開き必要な支援を見極めサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に言動を見ながら、得意なこと、解ること・解らないこと、出来ること・出来ないことを見極め、どのような支援が必要なのか情報を共有し、声かけや一緒に行ない感謝の気持ちを伝え意欲や活気に繋がれるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等にて状態を報告し相談や依頼をしながら関係継続に努めている。又ホームの草むしりや行事等への参加を呼びかけ参加を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	不定期ではあるが、自宅や親戚の所へ出掛けたり、外食、墓参り等に出掛けている。	遠方の家族以外、家族の面会は多く言葉かけなど来やすい雰囲気づくりに努めている。また、親戚や友人の面会も継続している。本人の希望で馴染みの店に出かけたり、家族の協力で墓参りや一時帰宅等なじみの関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割や手伝いに誘ったりお願いをして一緒に行えるようにしたり、寝たきりの方へはギャッジアップ時にホールから声をかけたり手振りをお願いし孤立しないよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの方は、死亡でのサービス終了なので行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動を重視しながら、問いかけをし情報を共有し声なき声(表情や仕草)を大切に本人本位に近づけられるよう努めている。本人や、他者に悪影響をおよぼさない限り尊重している。	入居時にこれまでの生活歴を本人や家族から聞き取り思いや意向の把握をしている。入居後は日々の訴えや表情、仕草などから意向を把握している。これらの情報を独自のシートにまとめそれをもとにカンファレンスで話し合い職員間の共有が図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には本人・家族関係者等の情報をまとめ、スタッフ全員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化や日々の言動からの気付きを見逃さず、都度話し合いや申し送りノートに記入しアセスメントを行いカンファレンス等で情報を共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が中心となり、日々の生活の中から状態を把握し本人の声や思いを汲み取り、家族面会時には問いかけ要望を伺い、毎月モニタリングを行い現状に即したケアプランを作成している。 状態変化時は見直し作成をしている。	介護計画は入居時は1か月、次に3か月、生活に慣れてきた段階で6か月ごとに見直しをしている。また毎月モニタリングした内容をカンファレンスで話し合いその情報をもとに職員の意見や気づきを加え現状に即した介護計画を策定している。状況変化時は随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録やチェック表、気づき等を記入し情報を共有し課題を見出し改善策を実践したり考慮しケアプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診のほか、都度の体調変化や必要に応じて、家族に報告・相談し他科受診を行えるよう臨機応変に対応している。他訪問理容、訪問看護、訪問歯科		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会主催のグランドゴルフに家族同意のもと4月～11月まで参加させて頂いたり、敬老会には児童館の子供達を招いてゲームや歌を楽しまれている。また、今年度はボランティアによる松明太鼓を演奏して頂き、家族や近隣住民の方々も一緒に楽しめた。食事会で、外出できない方には近くのそば屋から配達をして頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を確認し希望される医を受診出来るようにしている。家族同行しての通院や通院困難な場合は有料で管理者同行にて受診している。結果は、家族へ報告したり受診記録に記入しスタッフ全員把握できるようにしている。	入居時に利用者のかかりつけ医を確認し受診できるよう支援しているが、協力医療機関に変更される方が多い。通院は家族同行を基本とし、希望により管理者が同行している。受診結果は「受診記録」に記載ファイルされ、職員は直ぐに回覧し情報の共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の訪問看護ステーションと契約をし、定期的(毎週木曜日)に訪問されるので状態や変化等を報告しアドバイスを受けている。状態悪化時は看護師から主治医へ報告して指示を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は状態や変化を提供したり担当者と連絡を取り合い情報交換を行っている。担当スタッフや管理者が見舞いに行き状態把握に努め退院の見通しを伺ったり、家族や関係者と密に連絡を取りあい早期退院に向けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の看取りに関する方針を説明し同意を得ているが状態が変化するので、都度家族、主治医、管理者で今後の治療方針や看取りについて話し合いを設けるようにしている。	看取りの研修は年1回、訪問看護師を講師に行い情報の共有をしている。入居の際は看取りについての説明を行い同意書を頂いている。状態変化時には訪問看護に報告し、主治医とも連携を図り、その都度家族への説明し同意書を得ている。昨年は1人看取りを行い、現在も看取り介護支援を行っている方がおり訪問看護事業所、協力医と連携し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変のマニュアルがあり連絡体制を整えており、AEDの研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの避難訓練のほか、火災や地震等の自主避難訓練をほぼ毎月行なっている。緊急時には、家族や町内会長等にメール配信され応援を求められるようになっている。	年1回消防署立会いの避難訓練を行い、避難した部屋が分かる目印について助言があり入口に札を付けた。事業所では月1回、火災や地震、夜間を想定した訓練をしている。また、緊急時連絡網に一斉メール配信をシステム化し家族、町内会長への連絡体制が整っている。今後は近隣住民へ広げる予定である。水、食料品等の備蓄があり消費期限の管理もされている。	近くに川があることから、水害を想定した訓練も取り入れることが望まれる。また、地域住民の方への避難訓練時の見守りに参加いただけるよう声掛けを続けられ、地域の協力体制に繋げて欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉(トーン・強弱・指示・命令的)や態度、接し方が利用者に与える影響が多にあり認知症の勉強会を行い、自分に置き替えて考えてもらい声かけや対応には十分な配慮が必要であることを意識・認識するよう努めている。	利用者の方の関わり方や認知症の方とのコミュニケーション等の勉強会を行い、声かけや言葉遣いに気を配り、常に利用者の尊厳を傷つけない対応に心がけている。書類等は鍵がかかる書棚に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「〇〇してください」ではなく「〇〇してもらえますか」など選択できる簡単な声かけをし思いや希望を表せるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で全ての利用者のペースで行なうことには困難な場も生ずることもあるが、極力本人の生活ペースを大切に過ごして頂いている。(早く起きられる方、ゆっくり起き食事ゆっくり食べられる方。早く起きて仕事(洗濯たたみ)をされる方それぞれです)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分好みの服を着られたり、外出の声かけをすると綺麗に髭を剃り準備をされる方等、適時声かけや準備の手伝いをし支援している。食後や都度の汚れ時は更衣をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	畑から野菜をとってきていただいたり、具材の皮むきや切ったり盛り付け味見、ホットプレート使用時に手伝って頂いたりして食事は一緒に摂っている。毎週水曜日は利用者の希望食の日で交代で好きな物を召しあがって頂いている。	利用者の方に皮むきや食材切り、ハンバーグ等の成形、焼く作業などを一緒に行っている。敬老会、お彼岸等の行事食のほかに、毎週、希望食の日を設け利用者の好みを取り入れる。嫌いなメニューの時には別メニューで対応している。また、利用者と職員は会話を楽しみながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日最低でも10品目の具材を使用して彩や量に配慮しながら食事を作るようにしている。むせりがある方にはトロミを使用し、水分制限のない方には1日1ℓ以上を目標にチェック表に記入している。コーヒーやお茶を自分で入れて飲む方や家族と相談し多種多様な好みの物が飲めるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯洗浄、うがい、スポンジブラシ等にて口腔ケアを行い、夜は義歯洗浄剤を使用しケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオムツでも日中帯はパンツやパットを使用し定期的にトイレ誘導し排泄を促している。後始末が出来る方にはペーパーを手渡し処理して頂いたり、言動を注視しさりげなく声掛けしたり、ながらついで(自室に戻られたり、ゴミ集め、立ったついで)に誘導したりトイレでの排泄を大切にしている。	排泄チェック表により定期的にトイレ誘導しているほか、椅子から立ち上がられた時、部屋に戻られる時、散歩に行く前など、タイミングを見計らい声かけしている。これらの支援により、自立排泄に繋がるなど改善につながった例もある。また、声掛けもさりげなく行うなど羞恥心にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の勉強会を行ったり、植物繊維の具材をバランスよく取り入れたり、好みの飲み物や毎日体操して体を動かす機会を設け便秘対策をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	訴えがある時は他者の状態を考慮しながら意に添えられるようにしている。今は特に時間を気にする方はいないので、チェック表を確認しながら声かけを行い入って頂いているが、状況によっては続けて入られる方もいらっしゃいます。	利用者の希望に沿い週2～3回、職員2人体制で入浴支援をしている。異性の利用者には羞恥心に配慮し浴室入口で見守り対応している。薬を塗る、病院に行く日等と工夫して声かけを行っている。また、季節風呂として菖蒲湯、ゆず湯、さくら湯等ゆったり楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの重い布団をかけている方、軽い羽根布団をかけている方とそれぞれです。温度や湿度(加湿器持参の方もおられる)にも配慮し快適に休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが目を通せるよう一人ひとりの受診記録と処方箋を1冊のファイルにしていいつでも確認できるようにしている。内服介助は各人に見合った介助を行いしっかりと飲み込みを確認するようにしてる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力量に合わせそれぞれ食事の準備や家事仕事、他それぞれの役割を持ち過ごされている。心身機能を維持するために自主的に踵落としやお尻歩きを毎日行なわれる方もいらっしゃいます。 好きな物を飲み、スタッフに手伝いの声をかけられることを楽しみにされ力を発揮して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添えられるよう不定期ではあるがフリー（業務に入らない）の日を設け外出等に当てられるようにしている。また家族と共に外食したり、家や子供の所、親戚、墓参りに行っている。	日常は近くの公園や事業所周辺の散歩に出かけたり、事業所年間行事の花見、紅葉狩り、近くの愛宕山等ドライブを楽しんでいる。さらに、一人ひとりの希望に沿えるよう担当職員のフリーの日に菊人形見学、ラーメン、部屋掃除、居室の写真入替等様々な要望を聞き対応して、気分転換に繋がるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を財布に入れポケットに入れておられる方はありますが、それを使うことはない。家族から預かったお金はホーム預かりとし、欲しい物がある時（物によっては家族と相談）はいつでも購入できるようにしている。出納帳に記帳し月末に締め領収書と出納帳コピーを家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「迎えに来るよう電話をかけてちょうだい」と日に何度も訴えることがある方はいらっしゃいますが、今は電話をかけたい、手紙を書く等の訴えがある方はいない。 訴え時は状態に応じていつでも対応致します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内玄関や玄関先には椅子やベンチがあり自由に座りお茶を飲んだり会話・日向ぼっこを楽しまれている。庭には四季折々の花木や畑があり作業や収穫を楽しまれている。床暖やストーブ（ガス）にて足元を温めることができ、ブラインドや障子・カーテン等にて採光や風通し等にも配慮している。皆さんと一緒に得意分野を活かし季節ごとの作品を作りホールに展示し会話に取り入れている。	広い共用空間は快適に過ごされるよう床暖房を設置している。程良い光が差し込み、食堂からは調理の匂いがあり生活感が感じられる。利用者には折り紙、ぬり絵、貼り絵等から選んでいただき季節ごとの作品を掲示している。毎日の体操や歌、ご家族をお願いしてオセロを楽しまれるなど心地よく過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりや、炬燵、ベンチ、椅子等があり、それぞれ自由に過ごされている。ベランダで周囲を眺めながら過ごされる方もいらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている（グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入所時部屋を再現するくらい馴染みの物を持って来てくださるようお願いしている。家具や小物類等を持ってきてくれたり、家族の写真や飾られている。自分の作品を部屋中に飾り、好きなグランドゴルフの練習用に箱を工夫してゴールを作り暇な時は練習にいそしんでいる。	居室は和室、洋室があり、ベッドは備え付けとなっている。テレビや利用者作成の品や写真、花など思い思いに飾られている。居室担当者が部屋の掃除や整理整頓し居心地良く過ごせるよう配慮されている。また、ご自分の部屋が分かりやすいよう、入口の暖簾はそれぞれ違うものが下げられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には好みの暖簾をかけ迷われる方には名前や、目印をつけ解るようにしている。トイレ入り口に「使用中」「あいてます」の札を掛け誰もが入っているか否か分かるようにしている。家事仕事も力量を見極め、声かけ等を行いながら過ごして頂いている。		